

## 美術館で考えよう！～持続可能な環境とは～

- ・ 目的：大原美術館に展示されている絵画を中心とした美術品を通じて、その作品に込められたメッセージ（時代の人々の暮らしや価値観といったもの—穏やかな農村風景、水と緑、祈り、平和等—）を、ツアー参加者が、それらを感じとり、共有し合うことを目的とした。
- ・ 日時：平成 28 年 2 月 13 日（土）16:30～19:00（受付 16:00 開始）
- ・ 集合場所：倉敷物語館和室研修室
- ・ 場所：同上、大原美術館
- ・ ESD 専門家・当日進行：前田芳男氏（岡山大学地域総合研究センター准教授）
- ・ 参加者：35 名（一般市民、大学生など）

### 【タイムスケジュールと内容】

16:00 受付開始

16:30 開会

挨拶：原田幸也氏

（環境省中国四国地方環境事務所  
環境対策課長）



オリエンテーション：前田芳男氏

（岡山大学地域総合研究センター  
准教授）



初めて出会った人たちが絵を見ながら自由にお話を  
する練習をしたが、ここで一気に参加者が打ち解け、  
その後の美術館での意見交換前の雰囲気づくり  
をすることができた。



17:00 大原美術館に移動

大原美術館が 17 時の閉館後に実施している「イブニングツアープログラム」を利用し、19 時まで貸し切りで利用した。守田均氏（大原美術館学芸員）による解説も交え、展示作品を見て回った。



参加者は、「風車のエコなエネルギーと化石燃料の汽船の対比が面白い」とか、地獄は植物も生えていないが、天国は様々な植物や花や動物がいて生物多様性を感じる」といった ESD（持続可能な開発のための教育）につながる感想が述べられていた。

また、静かにしていないといけないのが一般的と考えられている美術館の空間で、自由な発想でも美術作品について参加者同士で話し合う様子も見られた。

18:30 ふりかえり

最後に、美術館内のアトリウムでふりかえりを行った。

守田均氏より、「絵画を見ても分からぬとい  
う感想も、すでに絵に関わっているということに  
なる。絵画は、そのものだけではなく、その描か  
れた環境とそこに入ってきた人間が関わること  
によって、その 3 者によって成り立っている。人  
間の活動と切っても切れないものである。」とい  
うまとめがあり、ESD とのつながりを改めて感  
じることができた。



美術作品を見ながら ESD を考えるのは難しいところもあったようだが、参加者は  
気づきがあり、ESD について考えるきっかけになった。

19:00 閉会・解散

## 【参加者アンケートの結果】

参加者アンケートからは、全体の評価点で 80 点以上が 67% を占め、全体的には高い評価を得ていた。中には、100 点以上という方もあり、美術館で他の参加者と一緒に話をしながら絵画鑑賞ができるという普段とは違った体験が高い評価につながったようであった。

一方で、40 点台～60 点台という評価も 15% あった。これは、美術品の鑑賞と ESD を結び付けて考えることの難しさや、ESD そのものに対する理解が十分ではなかったという感想があった。同時に、複数の人と一緒に美術館を回ることに対する戸惑いもあったようである。

美術館という場所での ESD の学びは、参加者にとって目新しく興味を引くものであったと考えられるが、ESD の啓発のためには、もう少し丁寧な ESD に関する解説も必要であることが見えてきたと言えるのではないだろうか。

### (1) 本プログラム内容は期待を 100 点とした場合何点だったか？

### (2) 感想自由記載

◆今回のイベントについて

・絵画を ESD と結び付けて考える機会はまずないと思うので、普段と違った目線で絵画を見る良い機会が得られた。

- ・気兼ねなく人と話をしながら絵を見るのはとても新鮮でした。
- ・もう少し、時間があったら良かったなと思った。
- ・ESD は難しい言葉だが、色々人の話が聞け、より楽しく絵を見る事ができた。
- ・これからいろんな絵を見るのにわくわくしそうです。とても幸せな時間をいただいてありがとうございました。
- ・人によって見方、考え方方が違い、話すことによって様々な視点で観る事ができ、ストーリーを想像し、この絵の前の場面はどうだったのだろう、このあとどうなるのだろうと、一枚の絵からどんどん話が広がっていくのが楽しかった。
- ・教育で用いるには本日のように楽しくおしゃべりできる美術館が必要だと思う。(o r その機会)
- ・有名な絵がなくて残念。
- ・わいわいがやがやの美術館は初めて。
- ・本当は 100 点以上ですが、全部見ることができなかつたので 98 点です。
- ・美術館で話をしながら鑑賞できるというのはとても面白いと思った。ゆっくり楽しく拝見することができた。
- ・絵を見て感じた感想を口に出すことができる事がすごく楽しかった。1 つの絵に対していろいろな考え方・捉え方があるのは当たり前なことであって、それをお互いに口にすることによって自分と違う考えも理解できたかなー、と思った。
- ・絵を見るのは好きだけど、団体で動くのは好きではないので・・・でも、色んな人の絵の感じ方を聞く事ができたという点ではよかったです。
- ・大好きな大原美術館に無料で入れ、好きな絵を展示してあって、個人的にはよかったです。
- ・幅広い年齢層の方と話す機会が少ないとおっしゃっていた方が多かった。  
このような機会を作ることは重要だと思う。絵を見ていろんなことを感じ、いろんな人と共有できる場がもっとできるといいと思う。
- ・こういう場面は初めてなので・・・でも知らない方と普段の話とは違うおしゃべりができる一期一会を楽しみました。
- ・ぜひ又似たような機会を続けて欲しい！ESD はとっつきにくいが、少しでも和らぐならないきっかけかも！大原美術館だから価値があるのでは。
- ・前田先生が最初に場をなごませてくれたのは大変有効だった。もしかすると効率悪いかも知れないが、名札の色分け（丸いシールとか）で 3 人くらいの小グループに分けるという回もあってもよいと思う。（友人同士で申し込んだ場合、少し最初からかたまつてしまいがち？）
- ・親子でワイワイ夜の美術館 ESD はよいかも？
- ・絵を見るというだけでなく、絵を見て考えるという事が楽しく、はじめての方々と話せたことが嬉しかった。

- ・美術館を貸し切りにしての贅沢なツアーでした。皆で感想を言いながら絵を見るのは新鮮でした。楽しかった。
- ・今まで「鑑賞しなければ」と思っていましたが、今日は肩を張らず「自由に感じて」眺めて歩いていいのだと思いました。
- ・物の捉え方の違い、価値観の違いを実感。
- ・E S Dの具体的な内容をよく知らずに大原美術館でどのようなことが学べるのかとわくわくしながら申し込みをしました。E S Dと結びついたかどうかは定かではありませんが、さまざまな方と絵（作品）についてお話することができ、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。

#### ◆ E S Dについて

- ・E S Dに関する説明として簡単な例などがあつたら良かったのではないか。
- ・E S Dを意識するためには、事前にE S Dの解説をしていただく、E S Dの視点からの絵の見方を教えていただく、実際に絵を見ながら解説していただくなどのアプローチがあつてもいいのかなと思った。
- ・自由に話ができるのはとても楽しかったが、E S Dというテーマ自体が難しくふわっとしているのでテーマからズレないようにするにして、資料をクイズ形式にするなどの工夫が必要なのかなと思う。
- ・E S Dに関連づけるとすれば、人それぞれの考え方の多様性、視点に触れ、想像力を使い、人とコミュニケーションをとることで、多面的に他人と協力して物事を解決できるようになり、持続可能な発展へつながるのではないかと思います。
- ・E S Dの観点で観ようとしたけれど、やはり難しかった。
- ・何でもE S Dにつながるのだなあと思う。
- ・E S Dはやっぱり分かりにくい。切り口として美術はとてもおもしろいと思った。
- ・E S Dにからめる必要性がわかりませんでした。「E S D」を言って広告していたので、その期待できた人には期待はずれかな。
- ・色々考えたが、E S Dについて考えられなかった。
- ・E S Dには私の中ではつながりませんでした。無理にマッチングして感じがします。
- ・絵の難しさが印象深すぎて、E S Dまで頭がまわらなかつた。
- ・E S Dという視点で美術作品に触れるというのがとても新鮮でした。
- ・これをきっかけにE S Dについて深く学びたいと思います。
- ・絵を見ての答は一つではないのでいろいろな人の考え方が響き合い、考え（思考）そのものがE S Dしているなあ（持続可能なんだなあ～）と思いました。
- ・E S Dの視点を含めた学びをより発展させるのであれば自由鑑賞→E S Dの視点による鑑賞、と段階的に進めてよかつたかもしれません。E S Dというと、四全・歴史etc・・・と必ず結び付けないといけないイメージがありましたが、身近な人の意見を聞

いて自分の意見とすりあわせ、新しい見方・考えを発見する、という行為そのものが「持続可能な社会」への繋がりとなるのではないかと感じました。

- ・E S Dがわからない人も多いと思うので、E S Dの視点というものが何かを事前に伝え、考え、腹落ちさせておいた方が良い。視点がバラバラだと、にぎやかな鑑賞会で終わってしまう・・・と思う。
- ・人と自然の共生、人と人のつながり、などという視点で作品を見てみましょう。とか視点を絞ってすべての作品を見てみるというのも面白いと思う。
- ・一人で見るのと人と会話しながら見るのとは、見る視点が、いろいろ違があるで、多くの人の見方も参考になり、人とのつながりがE S Dにつながるのかな？と思いました。今までの見方より注意深く見れ、楽しく見れ、人の関わりもいいなと。よくわかりませんが共生のE S Dに少しでも関わってるのかなと思いました。
- ・E S Dを考えながらの美術館での時間は難しかった。

#### ◆ その他感想

- ・絵のテーマタイトルは時代で違うのだと感じた。宗教的なテーマで聖書の一節を表現する時代があり、現代美術の説明を受けなければ絵タイトルとの関係がわからない時代、そして現在は心の中のさけびを表現しようとしているような気がした。
- ・持続可能ということであれば、緑を大切にしたい。豊かな自然の中では心が安らげるというはいつの時代も同じだと思う。
- ・島が群がっている木版がありました。群がっている木は葉が落ち、景色は閑散としている。現代につながるものが見える。今ある資源をむさぼりつくし、なおもそこに居座り続ける。彼らはきっと次の「木」を目指して行くのだろうけど、果たしてそこに未来はあるのか。
- ・100年くらい前の作品が多いと聞いて見たので、現在の暮らしと変わった部分と変わらない部分があると思った。
- ・普段の世知辛い分刻み？のような生活と少し離れて絵画を見られたのはとても心が洗われて良かった。人間って、やはり答えを欲してしまうので（正解と思われる/思いたい）、自分があまり関心のない現代美術の部屋に行つた所、なかなか理解するのが難しかった。ある意味理解できないのが怖いと感じた。ex：黒の絵の具で「絵」と題したもの。でも本当はそれはちがうでは？ともふと思った。話してみたら他の人も不安に感じたり、違和感を持ったことを知る事ができたのが新鮮だった。
- ・時代背景や当時の暮らしに思いを馳せて自然がある暮らしや生命について考える機会となりました。
- ・あー・・素晴らしい。世界のいやな事が別世界に思えましたが現実には何が出来るのか・・・。世間に目を向け何か踏み出せるよう心がけたいです。自然が当たり前と思える幸せを感じました。

- ・美術館の門が高く特別な場所と思えてましたが、もっと開かれた場所になって欲しいと思います。そうして将来・未来永劫この美術館が残って欲しいと思います。
- ・絵のことはわかりませんが、今回は優しい穏やかな絵の前で足が止まりました。今の自分の心がそれを求めているのかなと思いました。